

音楽劇 モチモチの木 ～箏の二重奏にのせて～



夜になると、木が両手を広げて「おばけ～」っておどかすんだ！

◆ものがたり◆ 原作：斉藤隆介(岩崎書店刊「モチモチの木」)

豆太は5才。山奥の漁師小屋でじさまと二人暮らしです。
秋には庭の大きなモチモチの木が、ピッカピカの実をつけて
じさまと作る「もちもち」は、たまらないほどうまいのです。
けれど夜はモチモチの木が怖くて、一人じゃトイレにも行けません。

冬のある晩、豆太はおそろしい唸り声で目を覚まします
闇の中、じさまが、腹痛で苦しんでいるのです！

豆太は表戸を吹っ飛ばし、真っ暗な夜の中へかけ出します。
はだしのまんま、ねまきのまんま、泣きながら…！

<豆太のドキドキが みんなのドキドキに> 構成・演出/西田豊子

…小さい豆太の心臓が ドキドキ・トクトク、鳴っています。
モチモチの実の「もちもち」は ほっぺが落ちるほど美味いから！
夜はモチモチの木が両手を広げ「お化け～」って言うから！
大好きなじさまが もしも死んだらと思うだけで 悲しいから！
峠の夜道を はだして駆けて 転んで血が出て 痛いから！
…そんな豆太の胸の鼓動が、客席の皆さんの胸の鼓動と重なり
ともに生きる 命のリズムが 響きあいますように。



その実を、石臼で引いて…粉にする！

<和楽器ならではの 音楽世界を> 作曲・音楽監督/石井由希子

音楽劇「モチモチの木」では、全8曲のオリジナル曲を
十三絃箏と十七絃箏のライブな二重奏でお届けします。
「お箏」と呼ばれる十三絃箏は西洋楽器ならバイオリンの
ように、高く美しく主旋律を奏でます。十七絃箏は、チェ
ロのように深い音色で低音部を担い、美しいハーモニー
を生み出します。

最終幕では二人の俳優さんが、それまで道具のように
見えていたカホンを演奏。客席から湧き上がる手拍子・
足拍子のリズムと響き合いながら体育館に広がります。
演劇「モチモチの木」は、邦楽家にとっても刺激的で素敵
な出会い。伝統を生かした多彩な音色と独特な奏法を、
存分にお楽しみ頂ければ幸いです。



途中で、月が出てるのに雪が降り始めた…

<劇中演奏される楽曲のご紹介>

～舞台を彩る8つのオリジナル曲中、6つのテーマ曲をご紹介します～

M1 オープニング「豆太とモチモチの木のテーマ」

峠の獵師小屋に暮らす豆太とじさまを見守るモチモチの木。風にそよぐ大樹の姿を楽しく美しく。

M4 「やい木イ 実イ落とせ～！」

夜は怖くておしっこも出ない豆太も、昼間は威張って大地を踏み鳴らし、木に命令するんです。

M5 「走れ 豆太！」

「医者さまを呼ばなくちゃ！」～真夜中の峠道を走る豆太を励ますように！

M6 「医者さまは 豆太を背負ってエッチラオッチラ」

医者さまはねんねごぼんでんて豆太を背負い、雪の峠道をエッチラオッチラ…！

M7 「モチモチの木に 灯がついている！」

その夜、医者さまを連れ小屋に帰り着いた豆太が見たものは…！

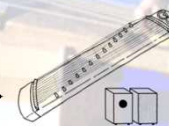
M8 エンディング曲「モチモチの木のメドレー」

十三・十七絃の二重奏に打楽器カホンと子ども達が、リズムで参加！

<お箏を知ろう・音で遊ぼう！タイム>

クイズで楽器紹介や「この音な～んだ？」コーナーも。

- その1 日本の箏と 南米ペルーの楽器カホンの、三つの共通点！？
- その2 劇で聞こえた三つの不思議な音。正体はな～んだ！？
- その3 お箏とカホンと一緒に季節のあの歌を、ご一緒に！



お箏の裏がわ 見たい？